

兵庫県立福崎／播磨福崎高等学校 図書だより



2025年 5月号

図書委員が「クラスみんなに読んでほしい」と選んだ10冊を、学級文庫として教室に置いています。改めて貸出や返却の手続きはいりませんが、大切に扱ってください。
そして、教室で手に取った本の続きや、同じ作者の本など、本を探しにどんどん図書室に来てください。

令和7年度 前期図書室開室予定表

昼休み(毎日)12:50~13:10、放課後(月・水・金)15:40~16:50

月曜日	火曜日(昼のみ)	水曜日	木曜日(昼のみ)	金曜日
5/26	5/27 ○	5/28 ○	5/29 ○	5/30 ○
6/2 ○	6/3 ○	6/4 ○	6/5 ○	6/6 ○
6/9 ○	6/10 ○	6/11 ○	6/12	6/13
6/16 ○	6/17 ○	6/18 ○	6/19 ○	6/20 ○

担当者不在のため、閉室になることがあります。

【工事の影響で図書室の入口が狭くなっています】

入口が半分ふさがっているせいで暗く感じますが、ドアの札が「開館」になっていれば営業中!です。

昼休みは毎日開けているので、ふら~っとやってきて本を読んだり、勉強したり、毎日顔を見せてくれる常連さんも増えてきました。

新聞もあるので読みに来てください。

もちろん放課後もお待ちしています。

【新着図書】

○播磨福崎高校の校歌を作詞してくださった時里二郎先生が、ご自身の詩集を寄贈してくださいました。
図書室に入ってすぐの書架に置いています。



【図書委員オススメの本】 今月は2年生からのオススメ!

~書名の前に○がついているものは図書室にもあります~

○『人間失格』 太宰治

「恥の多い生涯を送ってきました」三枚の奇怪な写真と共に渡された、睡眠薬中毒者の手記にはその陰惨な反省が克明に描かれていた。

[1組図書委員がオススメ!] 太宰治の遺書とも言われる本で、楽しくはないけれど、主人公の生き方に驚きを感じ、話の続きが気になる本。

○『進化した猿たち The Best』 星新一

人間と他の生物との一番の違いは何か。それは笑いと思像力である。星新一が長年愛読し蒐集してきたアメリカの1コマ漫画には、我々〈進化した猿たち〉の欲望や習性、奇癖があまるところなく描かれていた!ブラック・ユーモアと旺盛な想像力で見せるエッセイ集。

[1組図書委員がオススメ!] この本にはアメリカの様々な1コマ漫画が紹介されています。日本との感覚、文化の違いなどがわかって面白いので、ぜひ読んでみてください。

○『ライオンのおやつ』 小川糸

人生の最後に食べたいおやつは何ですか——若くして余命を告げられた主人公の雫は、瀬戸内の島のホスピスで残りの日々を過ごすことを決め、穏やかな景色のなか、本当にしたかったことを考える。ホスピスでは入居者がリクエストできる「おやつの時間」があるのだが、雫はなかなか選べずにいた。——食べて、生きて、この世から旅立つ。すべての人にいつか訪れることをあたたかく描き出す、今が愛おしくなる物語。

[2組図書委員がオススメ!] 最初は諦めの境地にいた雫が、ゴールが見えているにも関わらず前を向いて生きているホスピスの入居者さんたちに出会い、話を聞くことで心残りを思い出し、前に向こうと努力する。終始感情移入しっぱなしの涙なしでは読めない本です。感動したい人はぜひ!

・『余命半年の君と余命1年の僕が出会った話』 森田碧

高校一年の冬、心臓病を患って一年の余命宣告を受けた秋人。その通院先入院する同じく余命宣告を受けた春奈と出会う。自分の病気のことを隠して彼女と話すようになり。死ぬのが怖くないという春奈に興味をもってゆく秋人…。

[2組図書委員がオススメ!] 余命宣告された2人が、病気と戦いながら同じ時を過ごすにつれ、お互いを好きになっていく…。「自分がもし、余命宣告をされたら何をしようか」、「自分よりも短い余命宣告を受けた人がいたらどうするだろうか」そんなことを考えながら読み進めていくのがオススメです。残りの短い人生、どう生きるか考えさせられる小説です。

・『二人一組になってください』 木爾チレン

女子校の卒業式の日の教室に「二人一組になってください」と書かれており、余ってしまった人から脱落していき、最後まで残った人だけが卒業式に出られるという授業が行われた。

[3組図書委員がオススメ!] 自分たちと同じ高校生が主人公で、いじめについてや自分と友達の関係について考えさせられます。

・『犯人は僕だけが知っている』 松村涼哉

過疎化する町にある高校の教室で、一人の生徒が消えた。最初は家出だと思われたが、その後、次々と失踪者が増え、学校は騒然とする。だけど僕は知っている。姿を消した三人が生きていることを。それぞれの事情から逃げてきた三人は、僕の部

屋でつかの間の休息を得て、日常の戻るはずだった。

[3組図書委員がオススメ!] SNSでの炎上や誹謗中傷、いじめ、虐待など現代社会での問題がたくさん出てきて、とても考えさせられます。現代では個性が大切にされていますが、相手を理解することを怠らないことも大切だということも感じ取れて、新しい視点で物事を捉えることができます。

・『となりのナースエイド』 知念実希人

新人ナースエイドの桜庭凪は、星嶺大学医学部附属病院の統合外科病棟に配属された。技術至上主義の天才外科医・竜崎大河と時にぶつかりながら、医療行為が許されない立場で患者に寄り添い癒やしていく。凪がナースエイドを志したのは、半年前に起きた凄惨な事件がきっかけだった。どんでん返し連続に息を呑む、ノンストップ医療サスペンス。

[4組図書委員がオススメ!] 予想していなかった展開になるところなどです。この作品には続編もあります。読んでみて良かったなと思った人は、ぜひ手に取ってみてください。

○『青くて痛くて脆い』 住野よる

主人公田端楓は大学に入ってしまったとき、秋好寿乃という生徒に出会う。その後、たまたま隣になり、秋好が主人公に話しかけたことによって関係性ができる。そして二人で「モアイ」というグループをつくるが…。

[4組図書委員オススメ!] 読み始めた時は恋愛系かな、と思うかもしれませんが。ただ読み進めていくと、あることに気づきます。ただそれを裏切る展開も出てくるかもしれません。この本は人の裏切り、本心を考えることの大切さ、相手を傷つけることの怖さなど、様々なことに気づきます。

・『世界でいちばん透きとおった物語』 杉井光

大御所ミステリー作家が死去した。その人は妻帯者ながら多くの女性と交際し、そのうちの一人と子供まで作った。それが主人公。「親父が『世界でいちばん透きとおった物語』という小説を死ぬ間際に書いていたらしい。何か知らないか。」作家の長男からの連絡をきっかけに始まった遺稿探し。

[図書委員長からのオススメ!] 最後まで読んでみないとわからない結末があり、その結末を知るともう一度読んでみたいと思える本です。この本には、おもしろトリックが仕掛けられているので、ぜひ読んでください。